

少量土壌培地耕によるアムスメロン栽培 (半促成)の実証

農業技術振興センター企画情報部

【普及活動のねらい・対象】

滋賀県では21.6haのメロン栽培が行われており、その70%がアムスメロン等のハウスメロンです。近年、メロン産地では、土壌病害（つる割れ病、黒点根腐病、えそ斑点病）が発生し、生産が不安定な状況にあります。

その対策として、少量土壌培地耕によるアムスメロン栽培の検討が進められ、技術が確立がされたことから、当技術の現地実証を行いました。

【普及活動の成果】

甲良町尼子出屋敷の面積225m²(7.5m×30m)で、本技術実証試験に取組みました。

4月22日に苗を定植（栽植密度:2,100m²/10a、株間50cm、2条千鳥植え）、5月18日には12節目が開花し、5月21日には25節目摘芯、5月26日には2果残して摘果（12～16節着果）を行い、7月7日には収穫を開始することができました（収穫期間：7月7～16日）。

養液管理は、「タンクミックスA & B」を用いて、定植から開花まではEC2.0、開花から開花30日後まではEC1.5、開花31日から収穫までは水のみで管理しました。

その結果、収穫率92.7%、目標果実収穫率59.2%（1,200～1,500g果実割合）～79.1%（1,100～1,600g果実割合）、糖度15.1度と、目標収量および品質を概ね達成し、少量土壌培地耕アムスメロン栽培技術を現地実証することができました（図1）。



直売所で販売されるアムスメロン

メロンは、贈答用を中心に高単価で安定的な販売が見込める品目であり、特にアムスメロンは甘くて求めやすい安価なメロンであることから、今後更に需要が見込まれる品目です。また、本技術は、古い産地における土壌病害対策技術に加え、新規栽培者の導入技術として、今後、県内で普及が期待がされます。

現在、本事業実証ほを含めて、3戸、1,050m²に普及しています。

タイトル(HGP創英角ポップ体・24p)

所属名 (MSゴシック14p強調)

【普及活動のねらい・対象】(MSゴシック14p強調)

本文 (MS明朝・12p)

【普及活動の成果】(MSゴシック14p強調)

本文 (MS明朝・12p)

【
 字数：40字
 行数：40～45行
 マージン 上下25mm、左右20mm